

1 学校教育目標

・かしこい子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「子供たちが輝く学校」 ・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す学校 ・教職員が豊かな感性と情熱をもって、学び続ける学校 ・地域・保護者とともに、地域愛・学校愛をもった子供たちを育てる学校
○児童・生徒像	・自ら問いをもち、見通しをもって、学び続ける子 ・自分や友達のよさを認め合い、励まし合い、高め合える子 ・夢に向かって、しなやかにたくましく挑戦し続ける子
○教師像	・子供一人一人のよさを認め、励まし、可能性を最大限に引き出す教職員 ・授業力向上に熱意を注ぐ教師 ・学校と地域を愛する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

【前年度の成果】

- ・学校評価の「確かな学力の定着」に関する3項目は、児童 93%以上、保護者 88%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果が出ており、一定の評価は得られた。今後も教師の授業力向上を図っていく3年目の取組となる「本木5つの約束（学習・生活）」が浸透してきており、児童は落ち着いて学習したり、生活したりしている。
- ・児童が年間で読んだ本の冊数がR2年度 26.6冊→R3年度 38.6冊→R4年度 42.5冊と年々増加している。「読書通帳」が効果的に活用された結果である。
- ・コロナ禍であったが、人権尊重教育推進校として研究授業を（7本）行うことができた。中間発表も行い、成果と課題を確認することができた。
- ・1.2年 hyper-QU、3～6年 WEBQU を年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会（管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等）実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、情報共有し、見守り指導していく体制を継続し、児童の心の安定を図ることができた。
- ・R2年度より、本校の児童の課題である、長座体前屈（柔軟性）、ソフトボール投げ（投力）、シャトルラン（持久力）の記録（平均）を、年に2回とっている。全体的に1回目より2回目上昇。中でも、長座体前屈は他の2つの記録と比べて順調に伸びている。
- ・学校評価「学校・家庭・地域の連携」における満足度は89%であった。PTA主催による「本木ふえすた2022」、図書ボランティアによる「読み聞かせ」、学校の周りの球根植え等、地域・保護者の方々と対面での関わりができるようになり、連携を深めることができた。
- ・感染状況をみながら、授業参観も積極的に実施するなど、可能な限り児童の様子を保護者の方々に見ていただく機会を多くもつことができた。

【課題】	
確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自ら、「自分の成長」を感じられるような指導・授業を行う。 ・児童自ら、つまずきをのりこえられるような指導・授業を行う。
思いやりのある子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心できる環境（心・場・時）に整える。 ・一人一人の教師が自らの人権感覚を磨き、人権意識を高めていく。
たくましい子の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員で児童を指導し、児童を多面的に理解する。 ・児童が健康でたくましく成長できるよう、体力向上の取組を強化する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着 (学習意欲・基礎基本の力・考える力・授業力) 学力向上アクションプラン	◎	◎	◎		
2	思いやりのある子の育成	◎	◎	◎		
3	たくましい子の育成	○	○	○		

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
児童が自ら、「自分の成長」を確認できる授業、つまずきをのりこえられる指導・授業の実現	単元テスト 85%以上 区調査 通過率 75%以上 平均正答率 75%以上			

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業力の 向上	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の 研修計画 (板書計画の重視) ・教科担任制・学年担 任制・専科副担任制 の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 7 回実施 ・校内公開授業 1 人 2 回以上実施 1 人 2 回以上参観 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 12 月 迄に 7 回実施 ・校内公開授業 11 月迄に 各 2 回以上 			

2 新規	「読み・書き・計算」の力の向上と定着	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習（視写） ・ノート指導の充実 ・音読指導の充実 ・漢字・計算コンクール等の実施 ・読書通帳 	<ul style="list-style-type: none"> ・視写の字・量 ・ノート点検 ・音読学習の記録と音読発表会等 ・コンクールの記録 ・冊数・ページ数 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の成長を定期的・記録し、「成長の見える化」を確実に行う 			
3 新規	自力解決タイム	全教科	通年 (月・火・金)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・専科教員等が指導 ・学習支援ボランティアや保護者・学生のボランティアが支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストや区学力調査過去問等の正答率 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 85%以上 区調査の通過率 75%以上・平均正答率 75%以上 			
4 新規	読解力向上タイム	国語	通年 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・専科教員等が指導 ・「読解力向上」を図る問題に取り組ませる。 					
5 継続	AIドリル	算数	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習等の時間に、個別で活用し、つまずきは授業等で解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人・学級・学年等のAIドリルの活用度 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人平均 毎日10問以上 			

重点的な取組事項－2		思いやりのある子の育成							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度	
児童が安心して、自分のよさを発揮できる学校生活の実現		<ul style="list-style-type: none"> ・hyperQU・WEBQUの要支援群等の児童や学級満足度尺度の改善 ・自己肯定感の向上(前年度等の比較) 							
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準	具体的な方策			実施結果		コメント・課題		達成度
人権教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業7本 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育推進校発表会に向けて、研究授業の充実 							
本木・本気プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で1本以上 ・発表の場を設定(互いの活動を伝え合い、認め合い、高め合う) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年が一体となつての取組 ・取組を発表する場の設定(児童自らが、学校生活をよりよくしていると実感できるような取組とする) 							

自己肯定感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBQU・hyper-QU を全学年 2 回実施。要支援群等の児童等の状況改善。親和的な学級の増加 ・年 4 回以上の「俳句創作」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析と改善計画 ・教育相談委員会での情報共有と改善確認（毎週金曜日） ・生活指導夕会での情報共有と改善周知（毎週月曜日） ・年 4 回、季節毎に創作し、感性・語彙力を磨き、豊かな心を育む（コンクール等にも参加） 			
----------	--	---	--	--	--

重点的な取組事項－ 3		たくましい子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活と体力・運動機能の向上		R3 年度以前と比較し、R4 年度に改善あり			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
規律正しい学校生活の徹底	・児童アンケートにより、90%以上が肯定的回答	・定期的なアンケート実施（年 3 回以上）			
健康・体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の体育の授業で課題を解決するための運動の実施と運動量の確保 ・都（R3）や本校の体力調査（R3）の記録等と比較平均値の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体力アップ記録カード」を活用し年 2 回記録を実施 ・研修にて、教員が課題（柔軟性・持久力・投力）改善のための運動を習得し、授業で継続的な取組 			
保健指導・食育指導の充実	生活習慣アンケートをとり、R4 年度と比較し改善（学年・学校全体の推移を確認し、児童への指導と保護者への啓発を行う）	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズムカード」等の実施 ・養護教諭や栄養士と連携した保健指導や食育指導の充実 ・保護者会や各種便り等を活用し、保護者への啓発 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）